

地域計画を生きたものに ～「絵に描いたモチ」に終わらせないためのマネジメント～

京都府 福知山市農業委員会

1 農業委員会の体制と市町村行政との連携状況

○ 農業委員	:	20
○ 農地利用最適化推進委員	:	30
○ 事務局職員	:	4
○ 関係団体（名称のみ）		なし
○ 市町村行政との連携状況		所管課



2 地区の特徴、状況、課題

人口（国調）77,300人 65歳以上の人口比31.1%

農村部の高齢化と人口流失が進み、農業の担い手不足だけでなく存続自体が危惧される集落も出ている。急激な人口増が見込めないなかで、限られた人、労力で集落を維持していくための施策が必要となっている。



3 委員による継続した話し合いの取組内容

- ①市内を12ブロックに区分し地域計画を策定することにし、各地区推進協議会が「協議の場」としての役割を担っている。
- ②9月の中六人部地域の公告をかわきりに、完成した計画から順次公告している。
- ③策定後の計画の達成状況確認とブラッシュアップのための新たな「協議の場」の案を所管課が作成し、この案に対する委員の意見を聞くための地域別委員会議を12月16日～19日にわたって行った。
- ④現在の地区推進協議会を新たな「協議の場」として引き続き活動していくことを基本とし、今後各協議会で構成メンバーの変更等について検討していく。

4 成果（地域計画の実行に向けた取組内容）

- ①地域計画が「絵にかいたモチ」にならないためには、その目標（あり方）に向けて行動する「措置の実施」が必要であること、その措置の実行を点検し不都合な点は改善していくことが、地域計画を実質化していくために必要なマネジメントであることを共有できた。
- ②このマネジメントを運用していくためには、地区推進協議会の運営の中心となる最適化推進委員、農業委員のリーダーシップが重要であり、これを支援するための行政等の取組みも必要となっている。